

管理職を目指すならこの能力を身に付けよう！

女性が リーダーシップ を発揮するための特別講座



参考図書『仕事にも人生にも自信がもてる！ 女性管理職の教科書』（同文館出版／小川由佳著）

女性の管理職やリーダーが増えています。自分には向いていない」「いつまでたっても自信が持てない」と悩んでいる人も多いようです。でも大丈夫。完璧なリーダーなんていないのですから。まず大切なのは、「完璧じゃなくても大丈夫」と考えること。自分らしいリーダーシップを発揮すればよいのです。ここでは、女性が「リーダーシップ」を発揮するための方法についてアドバイスします。

こんにちは。女性管理職のメンター コーチ・小川由佳です。日頃、私がコーチという仕事の中で女性に接していると感じるのは、自分に自信のない方が意外に多いということです。お話を伺っていると、真面目で優秀で、「なるほど、だから会社はこの人を管理職にしたんだな」ということが伝わってくる方ばかりです。にもかかわらず、ご本人は「向いていないのでは」「私はムリだと思う」とおっしゃる。

どうして、自信がないのでしょうか？ 私は、「管理職という仕事」に對して、その責任感から「しっかりとこなさなければいけない」というプレッシャーを大きく感じたり、自分のライフプランから「プライベートと両立できないのでは」という不安を抱えたりすることが背景にあるように感じます。とくに女性の場合、仕事とプライベートを切り離すのは簡単なことではあ

りません。たとえば、妊娠や出産は、その適齢期がある程度決まっていますし、子育てでは、子供のみならず保育園事情や夫との協働関係などの影響も受けます（もちろん、男性でもこれらの影響は受けますが、現在の日本においては、まだまだ女性が受ける影響のほうが多いように思います）。

自分でコントロールしにくいものを抱えながら仕事をしていくわけで、「もし両立できなかつたら……」と考えると、不安が膨らむのはとてもよくわかります。

それでも、ここで私がお伝えしたいのは、「少しでも興味があるのであれば、やってみたら」ということ。なぜなら、本当にムリかどうかはやってみないとわからないし、実際には、なんとかなることがほとんどだからです。ただ、そうは言っても、自分のリーダーシップ能力について不安を感じている女性は少なくないでしょう。

そういう人のために、リーダーシップ能力を身に付け、リーダーシップを発揮するための方法をアドバイスしていきましょう。

「あるべき姿」に縛られるのはやめよう

「リーダーってというのは、みんなを引っ張っていかなくちゃいけないと思います。でも、私ってそういうタイプじゃないし……」。

こんな声をよく聞きます。私自身も管理職になったとき、そう思っただけで不安になりました。

でも、違うのです。なぜなら、リーダーにはいろいろなスタイルがあるからです。「こうじゃなくちゃいけない」という唯一無二のスタイルがあるわけではないのです。

私が初めて管理職になったとき、ま

ず、「管理職としてどうなればいいのか」をはっきりさせようと、リーダーシップ本を読みまわりました。また、会社でお金を出してもらって、リーダー研修を受けました。自費でリーダーシップ講座にも行きました。さらに、「この人、マネージャーとしていいな」と思う人たちに話を聞きに行きました。

そうして、自分で描いた「あるべきマネージャーの姿」を再現してみようとしたわけです。でも、うまくいかなかった……。

むしろ、「私には、そんな風にはできない」とか、「私は人を引っ張っていきようなタイプじゃないの」とか、「なんで○○さんはできるのに、私はうまくできないんだろう」とか、ネガティブなことばかり考えて、落ち込む日々でした。

振り返ってみると、当時の私は、「自分で思い描いたあるべきリーダー

像」になろうとしていたのだと思います。自分を変えようとしてもがき、変わらない自分に落ち込んでいたのです。それっておかしな話だと、今では思

います。人はそれぞれ違うわけで、その人に合った、その人らしいリーダーシップというものがあるからです。なのに、自分とは性格も強みも違う人のリーダーシップを見て、それをそっくり真似しようとするのは、無理があったのです。

身近な例を思い出してみると、わかりやすいかもしれません。ぐいぐい引っ張っていくようなリーダーがいるかと思えば、静かでそれほど口数も多くないけれど、人がついていくようなリーダーもいませんか？ みんな、あり方は違えど、リーダーとしてチームに働きかけ、目標を達成しています。

「あるべき姿」に縛られずに、自分らしいリーダーシップがとれればいいのではないのでしょうか。

「自分なりのリーダーシップ」を見つける

私自身、改めて自分の経験を振り返ってみると、うまくチームをまとめられたと思うときでも、「引っ張るリーダーシップ」とは程遠いものでした。

一番に思い出すのは、2人の部下とのエピソード。クライアント企業にシステムを導入する、あるプロジェクトのマネージャーをしていたときのことです。システムの開発が予定通り進まず、プロジェクトが滞りなく完了できるか、私は不安で仕方ありませんでした。

当時は毎日忙しくて、すごく疲れているにもかかわらず、心配で夜も眠れなくて、ずっとイライラしていました。

そんな状態が続いたある朝のこと。

職場に行ったら、よほど不安や焦りが、私の顔に出ていたのでしょう。逆に部下2人から、「小川さん、大丈夫ですよ。きっとなんとかなりますから。落ち着いてください」と声をかけられ、励まされてしまったのです。

リーダーとして情けない話ですが、その2人とは、その後もいいチームを組むことができ、プロジェクトも無事終了させることができました。そして現在でも、彼らとは友人としての関係が続いています。

その後もいろんな方とチームを組みましたが、思えば私の場合、どちらかというと「部下に助けてもらう」タイプのリーダーであったように思います。本やテレビなどでみかけるようなカリスマリーダーに、あなたが必ずしもなる必要はありません。むしろ、自分らしさや自分の強みを把握し、それらを活かした「自分なりのリーダーシップ」を見つけることが大切です。